

## 好奇心のリミッターを外して～堀真菜さん～

**堀真菜さん**、早稲田大学3年生。福幸塾ではインターン生を経験し、いまはプロインタビュアーとして、活躍のフィールドを確実に広げています。昨年9月には、なんと憧れのプロインタビュアー早川洋平さんから真菜さんのところにダイレクトメールが入り、今はその憧れの人と一緒に仕事をするまでとなり、自分の世界を確実に広げています。

大学に入った真菜さんは、サークルにも入り大学生生活のスタートを切りますが、周りの友達と波長が合わない、ということと、ただ大学でこのまま普通に学びサークルを続けるだけのことに違和感を覚えます。

そこで飛び込んだのが、西野亮廣さんのオンラインサロンでした。

真菜さんは、ここで、「世界の拡がりの面白さ」を経験するとともに、漠然としていた将来の仕事像が明確なものとなるきっかけをつかみます。

入った当初、西野サロンの学生メンバーの間では「50円雑談権」というのが流行っていました。これは、50円で自分と一緒にZoomで雑談する権利を販売するもので、真菜さんもこれにチャレンジします。

「でも、最初は本当に自分の雑談を買ってもらえるかとても不安でした。だから、『私と雑談してくれる人いますか?』って探りのツイートをしたんです。そしたら、思いのほか反応があって……」

多くの人から「いいね」と「話をしたい」というリプ。真菜さんは、すぐに自分の雑談権を発行し、100名近くの方と話すことになりました。自分の同じ学生で事業をやっている人、会社員の人、いろいろな人と雑談を交わしていくなかで、「こんな人がいるんだ!」「こんな世界があるんだ!」と新しい世界の拡がりに惹かれていきます。じゅくちょうとの出逢いも、実はこの「雑談権」がきっかけ。こうして、新しい世界が拡がり、大きなきっかけをつかみます。**真菜さんの「聴く力」への気づき**、です。

「真菜ちゃんって人の話を聴くのが得意だね」「真菜ちゃんと話をするととても楽しい」と、多くの方から言われ、真菜さんの雑談権のことも口コミでも拡がっていきます。この体験で「人の話を聴くことを仕事にしたい」というプロインタビュアーという具体的なイメージにつながっていきました。

実は真菜さん、以前から人とのコミュニケーションすることで仕事にならないだろうか、ということ漠然と考えていました。なぜならば、最も好きなのが「**人間観察**」だからです。

**「この人どんな性格なんだろう? と人間観察をしているときがすごく幸せなんです。人づきあいは苦手ですけど、観察者として接する場合は、人のことをとても愛しく感じるんです」**

人間観察のきっかけとなったのが、自分と向き合うこと、でした。浪人時代の塾の先生が、勉強や人生のことから逃げようとする真菜さんに、自分を向き合うことを教えてくれたのです。「かなり人間的に成長させてもらいました」という体験となり、真菜さんは人間の本質を意識し考えようになります。やがて、自分に向いていた意識のベクトルは、今度は自分以外の人に向くようになり、人間観察へとつながっていきました。

雑談権で発揮されていた真菜さんの「聴く力」は、この「人を観察したい、探求したい」という強い好奇心から生み出されてきているものだったのです。

幼少の頃、泥水を飲んで親に大目玉をもらったというエピソードの持ち主の真菜さん。「目の前の泥水がどうにも気になって……」と、手を出してしまったそうです。親に叱られることよりも、とにかく自分の好奇心が最優先(笑)。

周りを気にすることなく、好奇心のリミッターを外し素直になったからこそ、今の境地に辿りついているように思えます。この強い好奇心からの人間観察眼でインタビューされたら、誰しもが心の奥底に潜むものを引き出されて、新しい気づきを得ることは確実ではないでしょうか。



あなたの心の扉を開き、物語を紡ぎます。

制作&記事：ことはじめ/ライター 白銀肇

